

けの実験結果や意見を取り入れただけでも、結果としてその技術・機器が良くなればそれでいい。積み重ねが他への応用につながる」、「障害のある人に評価してもらう方が望ましいことは当然。なぜそれができないのかが問題」、「障害者の方に本音を語ってもらうのに時間がかかる。意見を引き出すには実験者との信頼関係が重要」、「n=1実験では高いコミュニケーション能力が必要」、「その人の生活や背景を物語るNarrative Basedの考え方が必要」、「少なくともn=1だから、という理由だけでNOとするということはない」といなど意見が出された。

(参加者数：約40名)

岡本 明 (筑波技術大学)

WS3 「ケア提供者とメイカーの合意に基づく次世代の看護用具・用品の開発」

医療現場でのケア力向上を実現する上で、看護用具・用品の質を高めることは重要である。そうした中、看護師を中心としたケア提供者への筆者らの調査から、個々の患者に合うよう看護用具・用品を手作りしている現状、メイカーとの意見交流・調整システムが無く実際の製品開発にニーズが反映されにくい実状が明らかになった。一方で、看護用具・用品を開発するメイカーへのヒヤリングから、臨床ニーズに適合した製品開発を希望しているが、ケア提供者側の意見を吸収・反映する仕組みが無い実状が判った。筆者らは、こうした問題意識の下でワークショップを開催し、ケア提供者とメイカーの看護用具・用品開発に関わる意見交流・調整システムの整備と、臨床の実状に適合したインタフェースを備えた製品の開発・普及を社会的に支援する効果的な方法論を主題として議論を行った。人間工学の研究者、看護の研究者、臨床経験豊富なケア提供者、看護用具・用品の開発・販売担当者が一同に介し議論を行った。特に、看護用具・用品開発に関連するケア提供者とメイカーの協働を支援するために慶應義塾大学で運営中のウェブサイト「NMC-Cube」に注目が集まり、リアルコミュニケーションとサイバーコミュニケーションの連携による製品開発支援のあり方が大きな課題として抽出された。参加者は少なかったが、学会で議論する価値の高い新しい研究分野であり、今後も継続的に議論の機会を持ちたい。

西山 敏樹 (慶應義塾大学/地域開発研究所)

WS4 「みんなのスマートハウスみんなでデザイン」

ユビキタスインタフェース&アプリケーション専門研究会は、ワークショップ「みんなのスマートハウスみんなでデザイン」を企画し、9月5日(水)午後6時30分よりA-0611教室にて開催した。ワークショップ名はもちろん大会スローガンをもじったものである。ユビキタスコンピューティングは生活に密着したコンピュータ利用形態であることから、家庭における応用が注目されている。そこで、ユビキタスコンピューティングにより強化される未来の住宅、いわゆるスマートハウスは、どのように設計されるべきかを議論し、みんなでデザインしようという主旨のワー

クショップである。最初にお茶の水女子大学の椎尾が、大学キャンパス内に建設計画中のユビキタスコンピューティング実験住宅プロジェクトの概要を紹介し、次に、住宅建築家である同大学の元岡展久氏が、この実験住宅の基本設計を説明した。さらに、自宅にコンピュータ類を多数埋め込んだ「記憶する住宅」を実践しているジャーナリストの美崎薫氏から、実践で得られた知見と、住宅設計への要望が示された。引き続き、発表者と45名の会場参加者により活発なディスカッションが行われた。住宅とコンピュータの寿命の違いを考慮し、組み込んだコンピュータをたやすく取り替えられる構造や、ユビキタスを実現するために、コンピュータを隠蔽し透明な存在にする設計が重要であるとの議論が交わされた。

椎尾 一郎 (お茶の水女子大学)

WS5 「女性研究者をまるはだか

～研究・恋愛・結婚・家庭」

少し刺激的なタイトルのこのワークショップは、HIST(ヒューマンインタフェース若手研究者のメーリングリスト)からの提案によるもので、ワークショップの企画、司会、パネリストと全て女性が努めており、ヒューマンインタフェース・シンポジウムの中でも珍しい構成となった。パネリストは、角薫(情報通信研究機構)、溝淵佐知(ノキア・ジャパン)、森悠紀(東京大学)、福井美佳(東芝)の4氏で、各氏の経歴・研究内容の紹介だけでなく、各氏の考える研究者としてのキャリア形成や必要な環境について経験を踏まえた講演をしていただいた。次に、会場からの質問「女性であるがために損だと思ったことの有無」「夫に望むこと」「研究を続ける上で国や会社の施策への要望」などについて議論が行われた。パネリスト各氏からは女性研究者・女子学生へのメッセージもあったが、各氏のプロフィールが既婚・未婚、子供の有・無、年代など様々であったため、そのメッセージも多様であり、若い研究者あるいは研究者を目指す学生にとっても様々な将来を想定することができ有意義だったと思われる。昼食時間にもかかわらず82名(うち、女性27名)の参加があり、特に男性からの熱心な質問・意見が相次ぎ、盛況うちに終了した。

深谷 美登里 (東芝)



ワークショップ